

諏訪市埋蔵文化財調査報告第58集

市内遺跡試掘調査報告書

(平成15年度)

— 長野県諏訪市内遺跡試掘調査報告書 —

2004.3

諏訪市教育委員会

例 言

1. 本書は、長野県諏訪市内遺跡の平成15年度試掘確認調査報告書である。
2. 本調査は、諏訪市教育委員会が調査主体者となり、諏訪市教育委員会の編成する諏訪市遺跡調査団が調査を担当した。
3. それぞれの現場における調査期間は、遺跡ごとに記載してある。報告書作成作業は平成15年11月から平成16年3月まで、諏訪市埋蔵文化財整理室で行った。
4. 本文中における水系レベルは可能なかぎり絶対標高を使用している。その他は現地における地形図からの読取りの標高である。
5. 現場における記録と整理作業の分担は次のとおりである。

遺構等実測……青木正洋・中島透・宮坂昭彦・藤森敏幸・藤森豊

遺物水洗・注記作業……赤堀彰子・藤森（豊）・藤森和美・久保田真矢

遺物実測及び遺構遺物トレース・図面写真整理……藤森（敏）・藤森（豊）・青木・中島

6. 本書の執筆については諏訪市教育委員会事務局が担当した。
7. 調査の記録は、諏訪市教育委員会で保管している。

各遺跡の略称および出土遺物の注記は以下のとおりである。

（埴日向遺跡・・・SKH 3 諏訪神社上社遺跡・・・SJK 5 丹波屋敷遺跡・・・SNTB 4

千鹿頭社遺跡・・・STKA 7）

8. 発掘調査及び報告書作成に際し、調査・整理作業参加者の他に下記の方々をはじめ多くの方々に御指導・御教示を得た。記して感謝申し上げます。（順不同、敬称略）

長野県教育委員会文化財・生涯学習課 金子てるみ 諏訪大社上社（株）カネトモ（宗）江音寺
小泉憲市 滝沢和登 守矢昌文 柳川英司 藤田 香

（目次）

例言・目次

- I. 市内遺跡試掘調査について・・・・・・ 1
- II. 埴日向遺跡試掘調査（第3次）・・・・・・ 3
- III. 諏訪神社上社遺跡試掘調査（第5次）・・・・ 4
- IV. 千鹿頭社遺跡試掘調査（第7次）・・・・ 9
- V. 丹波屋敷遺跡試掘調査（第4次）・・・・ 12

報告書抄録

写真図版



I 市内遺跡試掘調査について

1 今年度の試掘調査

諏訪市内遺跡における開発行為は、近年小規模の個人住宅建設などが主体となってきている。市内には現在220ヶ所を越える埋蔵文化財包蔵地が確認されているが、これらの開発行為に迅速に対応するため、市教育委員会では諏訪市遺跡調査団を編成し、国庫補助事業として「市内遺跡発掘調査事業」を実施し、遺跡の保護を図っているところである。

本年度は、米年度に控えた御柱祭の影響か、包蔵地内での開発行為にともなう発掘届の提出が9件、計画に先立つ有無確認調査依頼が2件と近年に近く増加した。そのうちの4件について試掘・確認調査を実施し、遺構等が確認された遺跡もあるなど、多大なる成果を収めることができたので、その内容について本書にて報告したい。

なお、その他の届出遺跡についても、立会い調査などを実施することにより、遺構等が破壊されないよう保護を推進してきている。今後も、増加すると考えられる小規模開発等に迅速に対応し、埋蔵文化財の保護を図っていくことが必要であろう。

・補助事業決定の経過（抄）

平成15年4月16日付け15生学文第3号

平成15年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書 市内遺跡発掘調査事業（国庫）

平成15年5月30日付け15守財第105号（15教文第1-24号）

平成15年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知 市内遺跡発掘調査事業（国庫）

2 調査組織

諏訪市遺跡調査団（平成15年度）

団長 細野 祐 （諏訪市教育委員会 教育長）

副団長 進藤正利 （諏訪市教育委員会 教育次長）

宮坂光昭 （諏訪市文化財専門審議会委員）

調査担当 青木正洋・中島 透 （諏訪市教育委員会学芸員）

調査団員（調査参加者）

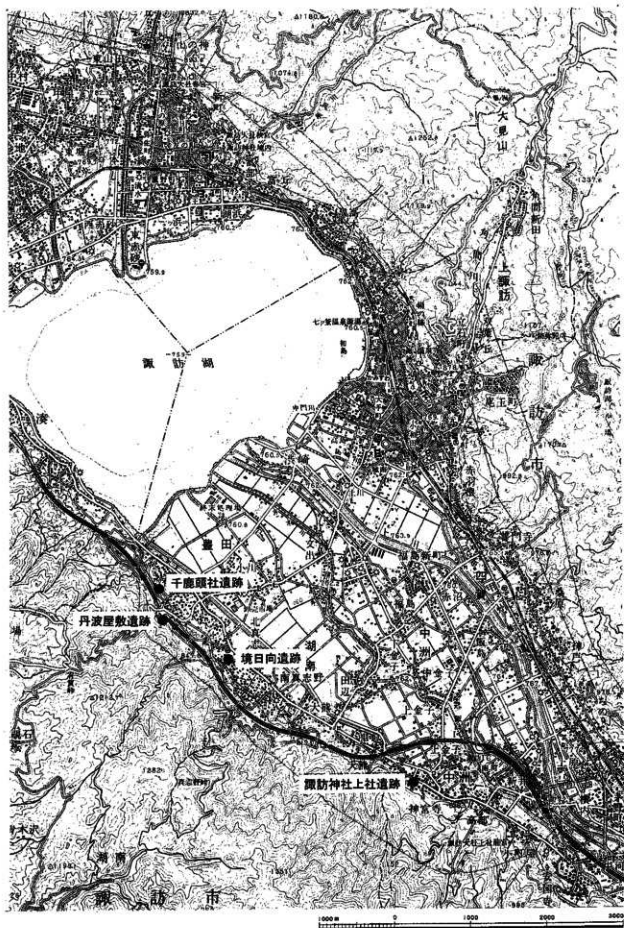
宮坂茂子・藤森敏幸・藤森 豊・矢崎末明・赤堀彰子・藤森和美・久保田真矢

（事務局）

事務局長 岩波文明 （諏訪市教育委員会 生涯学習課長）

事務主幹 宮坂昭彦 （諏訪市教育委員会 生涯学習課文化財係長）

事務局員 青木正洋・中島 透（諏訪市教育委員会 生涯学習課文化財係）



第1圖 平成15年度調査遺跡位置図 (1/50000)

Ⅱ 境日向遺跡試掘調査（第3次）

- | | | | |
|---------|----------------|---------|-----------------------|
| 1. 所在地 | 諏訪市湖南6145-3 | 5. 調査担当 | 青木正洋 |
| 2. 調査期間 | 平成15年5月14日 | 6. 検出遺構 | なし |
| 3. 調査面積 | 4㎡ | 7. 出土遺物 | 土器片（縄文～古代）
石器類（縄文） |
| 4. 調査目的 | 個人住宅建設に先立つ試掘調査 | | |

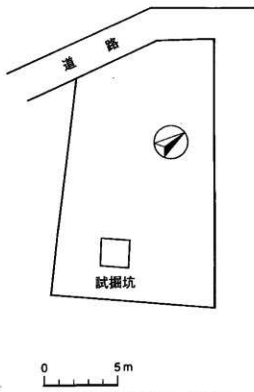
8. 調査概要

本遺跡は諏訪市湖南の北真志野地籍に展開する遺跡で、守屋山系の山裾から平坦部にかけて立地している。遺跡上方の舌状台地には縄文時代から古代にかけての集落遺跡である本城遺跡が立地し、遺跡北側を流れる中ノ沢川対岸の緩斜面には大安寺遺跡が展開している。過去に2度の試掘調査が実施され、縄文時代から中世までの各時代の遺物が検出されているが、遺構の検出はなく、土層堆積状態などから本遺跡の中でも特に平坦部については集落の展開する可能性は低いものと判断されている。（諏訪市教育委員会1995『大安寺Ⅳ・境日向』）

今回の調査範囲もこのような平坦部に位置することから遺構等が残存する可能性は低いことが予想されたが、住宅建設に先立って、遺構有無確認調査を実施した。調査の結果、表探を含め若干の遺物の出土はあったものの遺構の検出は無く、土層状態も2次調査時と同じく流れ込みの堆積が主体となることが確認された。以上のことから、今回の3次調査で本遺跡の平坦部については集落が営まれなかった可能性が更に強まったというデータを得ることができたものと考えられ、出土遺物の起源等今後への課題を提供した貴重な調査であったといえよう。



第2図 遺跡位置図 (1/5000)



第3図 調査区位置図 (1/250)

Ⅲ 諏訪神社上社遺跡試掘調査（第5次）

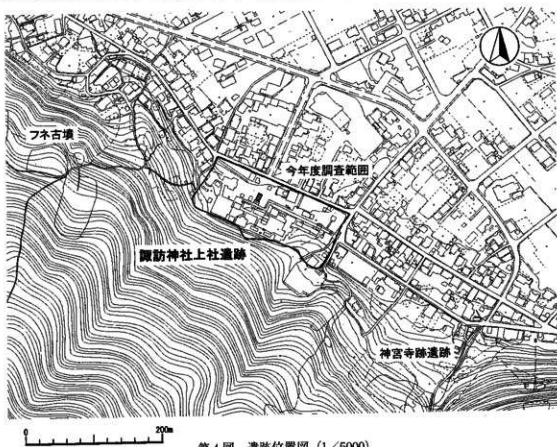
- | | | | |
|---------|---------------|---------|----------------------------|
| 1. 所在地 | 諏訪市中洲宮山1番地 | 5. 調査担当 | 青木正洋 |
| 2. 調査期間 | 平成15年9月2日～10日 | 6. 検出遺構 | 溝状遺構（近世）
列石遺構（近代） |
| 3. 調査面積 | 64㎡ | 7. 出土遺物 | 土器・陶磁器片（中世～近代）
石鉢（中世）ほか |
| 4. 調査目的 | 石畳敷設に先立つ試掘調査 | | |
| 8. 調査概要 | | | |

【調査の経過】

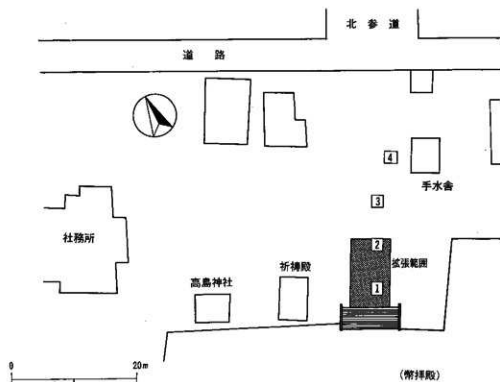
本遺跡は諏訪大社上社本宮の境内を中心とする遺跡である（第4図）。本遺跡では、過去に4度の調査がなされているが、そのうち社務所・斎館の移転と参集殿・宝物殿新築に伴う1次調査、および重要文化財建造物の防災施設工事に伴う2次調査によって、中世～近代の遺構、遺物が出土し、中世以降の境内面が複数存在することなどがわかっている（諏訪市教育委員会 1987）。

今回、北参道側の大鳥居から扉重門前へ登る石段までの間の境内に石畳が新しく敷設されることになったため、試掘調査を行ったものである。

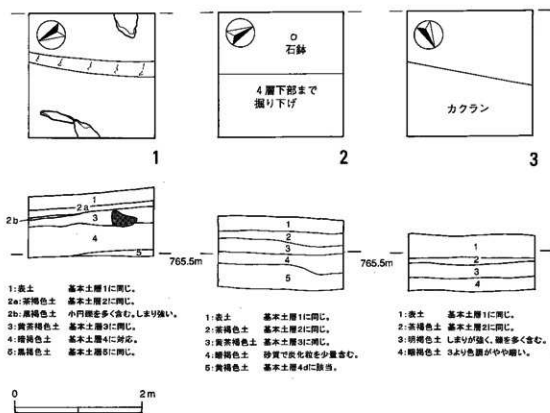
今回の調査では、4ヶ所の試掘グリッドを設定し（第5図）、遺構等の有無について確認したところ、Na1およびNa2グリッドで中世～近代のものと思われる遺構や遺物が出土した。このため工事の影響を受ける近世以降の面について、Na1グリッドの範囲を拡大して調査を行った。



第4図 遺跡位置図（1/5000）



第5図 調査区位置図 (1/600)



第6図 調査グリッド・セクション図 (1/60)

【調査について】

石段から島居までの間に2m×2mのグリッドを5m間隔で4箇所設定し、掘り下げを行った(第6図)。このうち石段に近いNo1グリッドの上層で規則的と考えられる石の配列が見られ、その下層では溝状の落ち込みがそれぞれ遺物とともに確認された。これらの遺構はグリッド外へさらに続いているものと想定された。No2グリッドでは遺構は確認されなかったが、No1グリッドで見られた溝状の落ち込みのさらに下層にあたる層位から石鉢が出土した。この資料は中世のものと考えられ、土層の状況等から中世の包含層が残存しているものと判断した。No3およびNo4グリッドでは、若干の遺物の出土はあったものの、土層の堆積状況が乱れている状況が確認された。特にNo4グリッドでは1層の表土より下は全て攪乱であった。過去に水道管や貯水槽の設置などがあったこともあり、この2箇所のグリッドについてはそれらによる後世の攪乱が大きく、遺構の残存はないものと判断した。

上記の試掘調査の成果を受けて事業主、県および市とで協議を行った結果、石畳敷設工事による掘削で影響を受ける現地表面から約80cmまでの面について、遺構の検出が見られたNo1グリッド周辺を中心に石畳の敷設範囲内で調査区を拡大し、工事実施中に随時記録をとる形で調査をすることとなった。現代の境内面にあたる表土を重機で掘り下げ、No1グリッドで検出した石の配列の面と、溝状の落ち込みの面を状況によって重機を入れながら手掘りで調査した。その結果、調査区は約6×10mの範囲に及び、各面から遺構・遺物の検出があった(第7図)。

【発見された遺構・遺物】

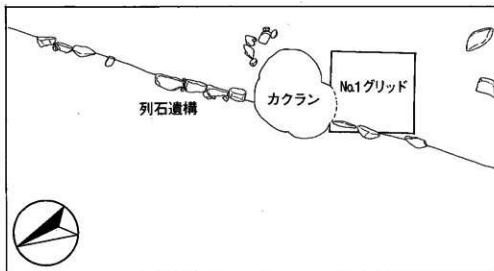
石の配列の面を第1面、溝状の落ち込みの面を第2面と便宜的に呼称する。第1面は基本土層で3層、第2面は4層に該当する。

第1面では、試掘調査時に想定されていた石の配列が、部分的に欠けてはいるが当初の想定通り北東方向に伸びていることが判明した(第7図上)。石は30cm～70cm程度のものが用いられており、東側に石の平坦な面を揃えている。この列石を境に土層の状況が異なっており、列石の東側はローム質の上が約10～20cmの厚さで敷かれるように堆積している。これは一種の土地造成のようなものと考えられ、これらからこの列石は敷地の境界に関する遺構と思われる。

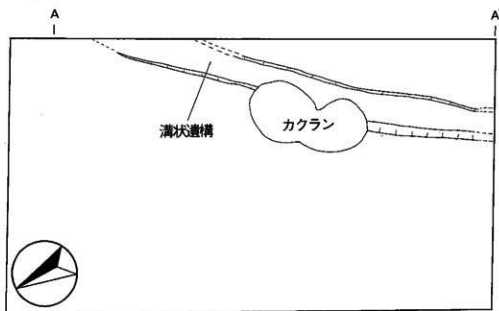
第2面では、やはり試掘調査時に検出されていた溝状の落ち込みが北東方向に続いていた(第7図中)。溝の西側の立ち上がりは約20cmの落差で明瞭に見られるが、東側はごく浅い。溝の底は砂質で鉄分の沈着がみられる。また、溝を埋めていた土層は小礫を多く含んだ砂利質のもので、これらからこの遺構は水の影響を受けたものと思われる。第1面で検出された列石とほぼ並行に走っているが、これらが関連するかどうかは後述する境内の範囲の問題にも絡み、今後検討を要する。

土層の状況や出土遺物等から、列石遺構は近代、溝状遺構は近世のものと考えられる。

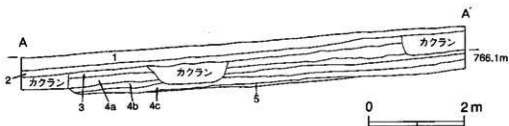
遺物は近世～近代のものほとんどである。陶磁器片が多くを占めているが、小片が多く復元できるものは多くない。瀬戸美濃の製品を中心とし、肥前系、伊万里系などが若干入る傾向が見られる。器種としては、磁器では鉢、碗、皿、徳利などが、陶器では茶碗、急須、甕などがある。瓦も出土しており、粗製のものや搬入品と考えられる焼成のよい軒瓦もみられる。また、No2グリッドでは陶磁器片のほか石鉢が出土している(第8図)。この石鉢は半分程度を欠いているが、口縁部の直径は約15cm、高さは約8cmである。鉢全体に鑿のような刃先が平坦な工具でつけられたと見られる加工痕が顕著に観察できる。底部には四隅に足が作り出されている。全体的に作りが荒い部分が多い。



第 1 面



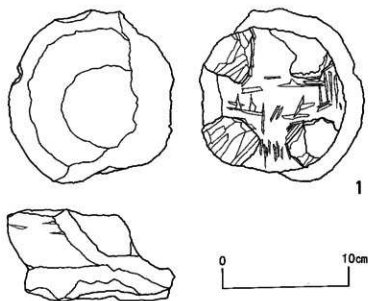
第 2 面



【調査区基本土層説明】

- | | | |
|----|------|-----------------------------------|
| 1 | 表土 | 小礫（五砂利）を多く含む。現代の境内。 |
| 2 | 茶褐色土 | 粘性が強く硬質で、礫を多く含む。 |
| 3 | 黄褐色土 | ローム質でしまり、粘性が強い。礫を多く含む。土壌構成によるものか。 |
| 4a | 暗褐色土 | 砂質で小円礫（砂利）を多く含む砂礫層。粘性はない。 |
| 4b | 明褐色土 | 砂質でしまり、粘性は強い。礫は多くない。 |
| 4c | 暗褐色土 | 4aに似るも色調はやや明るい。若干の礫を含む。 |
| 4 | 黄褐色土 | 礫が混じり、二次堆積的なローム土。 |
| 5 | 黒褐色土 | 砂質で酸化鉄を含む。水の影響を受けている。 |

第 7 図 遺構平面図 (1/80)



第8図 遺構実測図 (1/3)

【まとめ】

過去の調査により、諏訪大社上社境内が現在の姿に整えられるまでには様々な改変があり、それに伴う複数の遺構面の存在および、後世の擾乱が広範囲に及んでいることがわかっているが、中世の包含層が残存していること、また近世～近代の遺構の存在が今回の調査によって改めて確認された。中世については遺構の検出はなかったが、石鉢のほか陶器片も数点出土しており、何らかの遺構の存在が予想されるものである。また近世については出土遺物の検討から、一部に18世紀中頃まで遡れると思われる資料もあるが、19世紀中頃のものも多く、江戸時代末期頃が主体になると考えられる。

なお神社の境内にある遺跡ということで、祭祀に関する遺構、遺物の存在も予想されたが、出土陶磁器類の内容を見ると、いわゆる一般の生活用品に当たり、祭祀に密接に関わるようなものは見当たらなかった。今回の調査地周辺については、昭和初期には民家が建っており境内地外であったことから、近世～近代においてもここが境内であったかどうか、出土遺構の性格も含めてなお検討する必要がある。

今回の調査は諏訪神社の歴史の変遷について新たな資料を提供するものと思われる。本遺跡は、諏訪信仰に関わる遺跡として重要な位置を占めるものであり、今後も情報を収集し、保護、活用に努めていく必要がある。

参考文献 諏訪市教育委員会 1987 『諏訪神社上社遺跡』

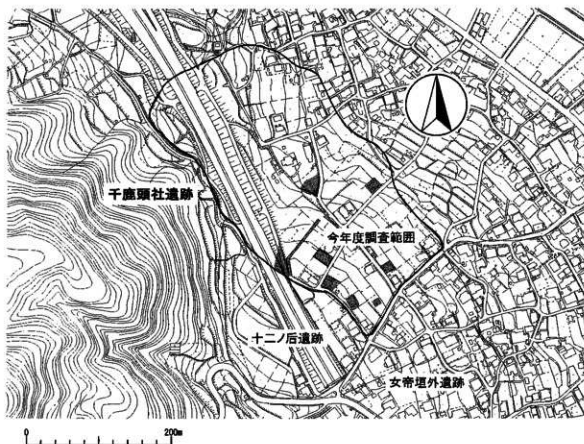
IV 千鹿頭社遺跡試掘調査（第7次）

- | | | | |
|---------|-----------------|---------|----------------|
| 1. 所在地 | 諏訪市豊田3967-1 | 5. 調査担当 | 青木正洋 |
| 2. 調査期間 | 平成16年2月12日～13日 | 6. 検出遺構 | 住居跡1軒（時期不明） |
| 3. 調査面積 | 16㎡ | 7. 出土遺物 | 土器片（縄文～古代） |
| 4. 調査目的 | 遺構等有無確認のための試掘調査 | | 石器（縄文）土錘（古代）ほか |

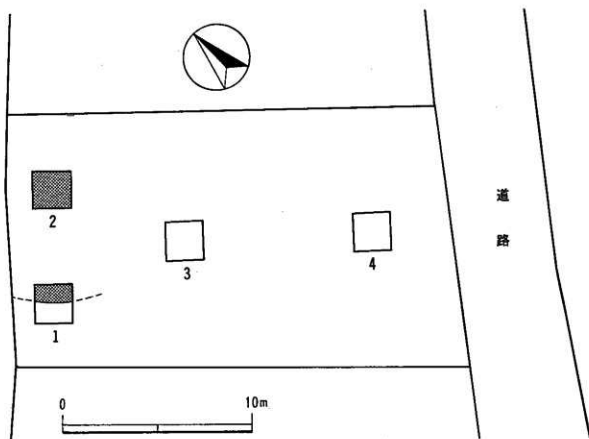
8. 調査概要

本遺跡は諏訪市豊田地籍の諏訪湖に面した緩斜面に立地する集落遺跡である。背後には各時代を通じて交通の要所となっている有賀峠が控え、周辺の遺跡も含めると縄文時代から現代に至るまで、大規模な集落が形成されている場所でもある。本遺跡でも過去に6度9地点の調査が実施され、縄文時代から平安時代までの住居跡を多数検出しており、各時代を通じての拠点集落であった可能性が高いものと考えられている。

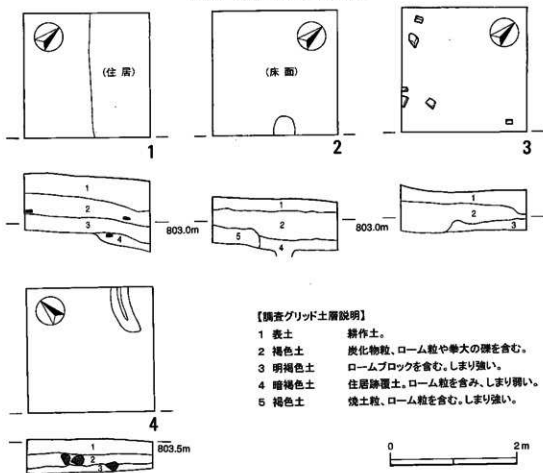
今回の調査は、現在は畑として利用している土地所有者から今後の土地利用（開発）の参考にする目的で、遺構等の有無の照会があったため、計画に先んじて確認のための試掘調査を第7次調査として実施したものである。対象地内に試掘グリッドを4ヶ所設定し、手掘りによる精査を行った結果、全てのグリッドで土層堆積が安定し、2層以下より土器片や石器などが数多く出土した。（第10, 11図）



第9図 遺跡位置図 (1/5000)



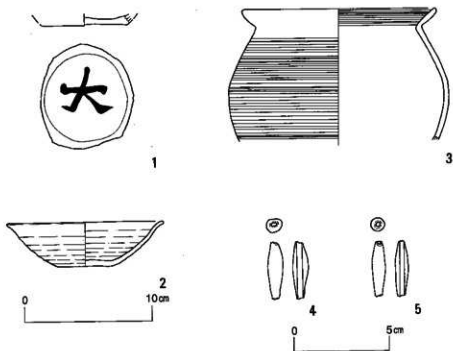
第10図 調査区位置図 (1/200)



【調査グリッド土層説明】

- | | |
|--------|----------------------|
| 1 表土 | 耕作土。 |
| 2 褐色土 | 炭化物粒、ローム粒や華大の礫を含む。 |
| 3 明褐色土 | ロームブロックを含む。しまり強い。 |
| 4 暗褐色土 | 住居跡覆土。ローム粒を含み、しまり弱い。 |
| 5 褐色土 | 焼土粒、ローム粒を含む。しまり強い。 |

第11図 調査グリッド・セクション図 (1/60)



第12図 遺物実測図 (1~3:1/3、4~5:1/2)

【検出遺構】

第1グリッドで3層から掘り込まれる落ち込みを検出したため、部分的にトレンチ調査を行い住居跡であることを確認した。さらに、第2グリッドでも地表下80cmで住居床面と推定される硬質面を検出したことで、調査区内に遺構の残存することが明らかになった。出土遺物などから平安時代の住居跡と考えられるが、今回は確認が目的の調査で調査面積が少なく、遺構もそのまま埋戻しているため、断定は避けた。また、第4グリッドでは底部に砂利層を有する溝状の落ち込みも検出され、土樋が出土している。自然流路的な状況ではあるが、旧地形等を考える要素の一つとして、興味深い資料である。

【出土遺物について】

今回の調査で出土した遺物は、調査面積の割に数が多く、前述したように平安時代のもものが中心であるが、縄文土器片や弥生土器片も確認されている。土器の完形品は無いが一部図上復元を行い、第12図に示した。遺物1~3は第1グリッドで出土したもので、1は底面に「大」の字が墨書された内面黒色の土師器環である。2は須恵器環であるが、土師質で焼成はあまり良くない。3は甕の口縁部破片で、口縁部に折り返しがある小型の甕と想定される。4~5は第4グリッドで出土した土樋で、2つとも管状で長さが3センチほどのものである。図示した以外に甲斐型環や灰軸陶器等の破片も見られ、時代的には9世紀を中心とするが多岐に渡る可能性が高い。

【調査の意義】

今回の調査は、包蔵地内の未発掘の地に遺構等が存在するか否かを確認するための調査であった。結果、住居跡が確認され、該地については開発される前に保護措置を講じなければならないことが事実となった。個人住宅建設などの小規模な開発で保護措置に十分な時間が割けない現状を考えると、このように事前に地下の様相を知っておくことも有効な手段と成りえるものと思われる。

V 丹波屋敷遺跡試掘調査（第4次）

- | | | | |
|---------|---------------------|---------|---------|
| 1. 所在地 | 諏訪市豊田4552-1, 4553-1 | 5. 調査担当 | 青木正洋 |
| 2. 調査期間 | 平成16年2月9日 | 6. 検出遺構 | なし |
| 3. 調査面積 | 12㎡ | 7. 出土遺物 | 土器片（中世） |
| 4. 調査目的 | 擁護壁設置に先立つ試掘調査 | | |

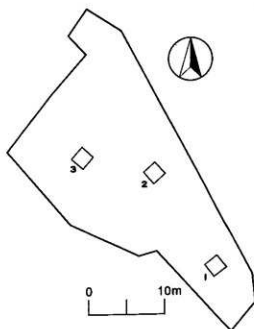
8. 調査概要

本遺跡は諏訪市豊田の有賀峠の麓、江音寺の東側に立地する。周辺は時の入口の要所として、縄文時代から近世にかけての集落遺跡が数多く広がり、本遺跡も中央道建設時に女帝垣外遺跡として調査され、平安時代から中近世に属する住居跡や建物址が検出されている。また、今回の調査区の隣地においては過去二度の試掘調査が行われていて、遺構の検出はないものの縄文時代から古代にかけての遺物が散見されている場所でもある。

今回の調査は（宗）江音寺が、今後の墓域の造成や擁護壁工事を計画するにあたり、埋蔵文化財の有無確認を市教育委員会に依頼したことから、該地における確認調査が実施されることとなった。対象地域に3箇所の試掘グリッドを設定し、調査した結果、中世に帰属する土器片は検出されたものの、攪乱が著しく、また安定堆積の土層も削平を受けているなど、遺構の発見は無かった。過去の調査の情報も加味すると、今回の調査区も前回と同じく遺跡の中心より、やや山側に位置するものと判断されよう。



第13図 遺跡位置図 (1/5000)



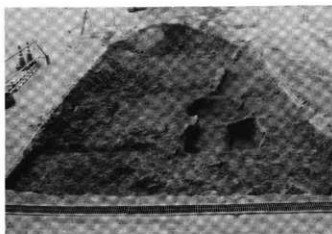
第14図 調査区位置図 (1/500)

報告書抄録

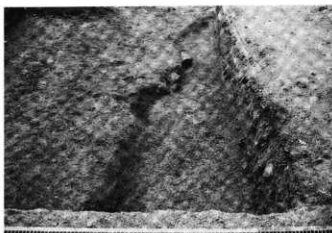
ふりがな	しないいせきしくつちょうさほうこくしょ							
書名	市内遺跡試掘調査報告書							
副書名	平成15年度諏訪市内遺跡試掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	諏訪市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第58集							
編著者名	青木正洋・中島 透							
編集機関	諏訪市教育委員会							
所在地	〒392-8511 長野県諏訪市高島1-22-30 ⅴ0266(52)4141							
発行年月日	2004年3月26日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さかいひなた 境日向遺跡	すわし こなみ 諏訪市湖南	20,206	332	36° 00' 40"	138° 05' 40"	2003.5.14	4	個人住宅建設に係る事前調査
すわじんじやくみしや 諏訪神社上社 遺跡	すわし なかす 諏訪市中洲	20,206	352	35° 59' 43"	138° 07' 19"	2003.9.2 ~9.10	64	石畳設置工事等に係る事前調査
ちかとうしや 千歳頭社遺跡	すわし とよだ 諏訪市豊田	20,206	305	36° 01' 05"	138° 05' 08"	2004.2.12 ~2.13	16	土地利用参考のための有無確認調査
たんばやしき 丹波屋敷遺跡	すわし とよだ 諏訪市豊田	20,206	310	36° 00' 53"	138° 05' 10"	2004.2.9	12	擁壁設置等に係る事前調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
境日向	敷布地	縄文・弥生	なし		縄文土器片・近世陶磁器片			
諏訪神社上社	寺社跡	中世・近世近代	溝状遺構・列石遺構		中近世陶磁器片・石鉢			
千歳頭社	集落跡	縄文・弥生平安・中世	住居跡1軒		縄文土器片・土師器片・須恵器片 陶磁器片			
丹波屋敷	集落跡	縄文・平安	なし		中世土器片			



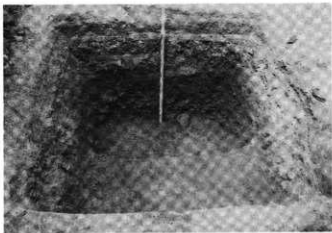
境日向遺跡No.1グリッド完掘



諏訪神社上社遺跡列石遺構検出



溝状遺構完掘



諏訪神社上社遺跡No2グリッド完掘



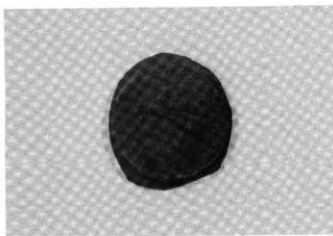
No 2 グリッド出土遺物 (石鉢)



千鹿頭社道跡調査区近景



千鹿頭社遺跡No1 グリッド完掘



千鹿頭社遺跡出土遺物(墨書土器)



丹波屋敷遺跡No1 グリッド完掘

市内遺跡試掘調査報告書（平成15年度）

—長野県諏訪市内遺跡試掘調査報告書—

平成16年3月26日

編集・発行 長野県諏訪市高島1-22-30
諏訪市教育委員会

印刷 (株)マルジョー上田印刷
